

【2限】

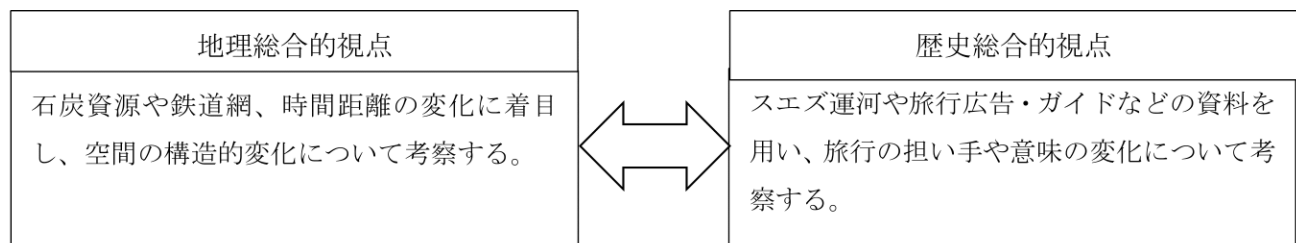
【11H】(課題発見型)

教科：国語	科目：言語文化	授業者：	教室：1 1 H教室
単元：訓読のきまりを理解し、文章の内容や構成、展開などを的確に読み取る。(読むことア)		本時の主題：「借虎威」に込められた意図について考察する。	
ねらいとする課題発見力（左の欄に○をつける）			
○	① 情報に対して、自分なりの視点で注目することができるようになる		
	② 注目した側面について、疑問・問いを立てることができるようになる		
本時における、おおまかな授業展開		想定される生徒の反応と、教師の声かけ	
・「借虎威」の内容を確認する ・寓話の背景として何を喩えた話なのかを考えさせる。 ・教科書本文の前後にある文章を提示し、グループで読み下し、誰のどのようなねらいによる例え話なのかを考察する。 ・さらに、春秋戦国時代や遊説家という時代背景に視点を広げていきたい。		一般的な故事成句としての「借虎威」の意味の理解だけでなく、『戦国策』の本文や当時の地図を示すなど、さまざまな視点が持てるよう心がける。	
今後の授業展開・計画			
・各グループの発表を参考に、各自がまとめたワークシートを完成させる。要提出。			

【12H】(教科・科目・領域融合型)

教科・科目・領域； 地理総合×歴史総合	授業者；	教室；12H教室
テーマ； 石炭が旅を変えた ～産業革命と旅行の近代化～		
融合のねらい 「旅行」という身近な例を題材に、産業革命による影響を「空間の変化」と「社会の変化」の視点から多面的にとらえる。		
本時のねらい 産業革命による技術革新によって、人々の生活や社会がどのように変化したかについて多面的に考察する。		

内容



評価基準（○は該当する評価）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
複数資料の読み取りから、産業革命による技術革新によって人々の生活や社会の変化について考察し、文章で表現することができる。		

【14H】（オンライン学習型）

教科：理科	科目：化学基礎	授業者：	教室：生物実験室
単元：物質と化学反応式	本時の主題：原子の相対質量		
つきたい探究力（該当するものに○）		そのために、 	オンラインでの学習環境を、
課題発見力			① 「ツール」として活用 ○
課題解決力	○		② 「学習形態」として活用 ○
批判的思考力			
多面的分析力			
本時における、おおまかな授業展開		どのようにオンラインでの学習環境を活用するか	
①米や豆の相対質量を測定により求める。 ②相対質量に含まれる米や豆の個数を数える。 ③実際の原子の相対質量を求める。		事前に相対質量や原子量とは何かを予習し、米と大豆の一粒ずつの重さを比べる方法について考え、それを Google Form で提出。授業開始時に全体で共有する。また、授業中は実験結果を全体で共有する。	
		ねらいとする探究力をどのようにつけるか イメージしにくい相対質量について、相対質量の求め方を体験的に学ぶことによって、課題解決能力、主体性・協同性を育成する。	

【15】（オンライン学習型）

教科：国語	科目：現代の国語	授業者：	教室：15H
単元：自分の考えを明確にし、相手の反応を予想しながら、話の展開を工夫しよう。	本時の主題：「まちの豊かさとは何か」の叙述をベースとして自己の考えを聞き手を想定して伝える。		
つきたい探究力（該当するものに○）		そのために、 	オンラインでの学習環境を、
課題発見力			① 「ツール」として活用 ○
課題解決力			② 「学習形態」として活用
批判的思考力			
多面的分析力	○		
本時における、おおまかな授業展開		どのようにオンラインでの学習環境を活用するか	
本時の課題：教科書教材・追加資料を通して得られた自己の考えを相手の反応を予測しながら、伝わり易い展開を考えて発表する。 導入 教科書と追加資料の内容が少し違うことを確認。 展開① 追加資料を加えた筆者の意見を参考にして、ワークシートに自分の考えをまとめる。 展開② 自分の考えを展開を意識してグループ内で発表する。 まとめ グループ内で出た意見をふまえて自己評価する。		教科書の叙述に関連した追加資料を手に入れる道具として活用する。	
		ねらいとする探究力をどのようにつけるか 筆者の意見をベースにしながらも多角的に検証した自己の意見を的確に伝える力を身につける。	

【16H】(課題発見型)

教科：理科	科目：地学基礎	授業者：	教室：1 6H
単元：第3部 移り変わる地球		本時の主題：地層の観察	
ねらいとする課題発見力（左の欄に○をつける）			
	① 情報に対して、自分なりの視点で注目することができるようになる		
○	② 注目した側面について、疑問・問いを立てることができるようになる		
本時における、おおまかな授業展開		想定される生徒の反応と、教師の声かけ	
石川の自然 第23集地学編(11)の資料を参考に、石川の地層断面図から、その地層がどのようにできたのか、この地層を解析するのはさらにどのような知識や情報収集が必要なのかをグループで議論する。		これまでの知識をもとに解説できることと今後の学習で必要なことなどを区別しながら、わかる範囲で地層解析するよう声掛けをする。必要に応じてクロムブックで地形を調べるよう促す。	
今後の授業展開・計画			
示相化石や示準化石、生痕化石について学ぶ。 地質年代に関わる46億年の歴史について環境変化とともに学ぶ。			

【17H】(課題発見型)

教科：理科	科目：化学基礎	授業者：	教室：化学実験室
単元：物質の構成		本時の主題：炎色反応と沈殿生成による成分元素の同定	
ねらいとする課題発見力（左の欄に○をつける）			
○	① 情報に対して、自分なりの視点で注目することができるようになる		
	② 注目した側面について、疑問・問いを立てることができるようになる		
本時における、おおまかな授業展開		想定される生徒の反応と、教師の声かけ	
炎色反応と沈殿生成の確認実験を行う。 続いて、未知の物質について、炎色反応と沈殿生成の実験を行い、その結果を先の確認実験と照らし合わせて、成分元素の同定を行う。		得られた結果だけを見て判断しようとして行き詰まる生徒が出ると考えられる。先の結果と照らし合わせることで、知っていることと結果を結びつけることを繰り返し指導したい。	
今後の授業展開・計画			
今回の結果の共有を行い、考察のポイントを確認する。 実験結果と既知の事実から考察する練習を、題材を変えて行う。			

【18H】(課題発見型)

教科：家庭	科目：家庭基礎	授業者：	教室：被服室
単元：人の一生と住まい		本時の主題：住要求の変化と現代の住まい	
ねらいとする課題発見力（左の欄に○をつける）			
○	① 情報に対して、自分なりの視点で注目することができるようになる		
	② 注目した側面について、疑問・問いを立てることができるようになる		
本時における、おおまかな授業展開		想定される生徒の反応と、教師の声かけ	
なぜ人は住居が必要なのか、住居の機能には何があるかを考えさせる。 求められる住居の機能の変化から、日本の住居がどのような進化をとげたのかを学習させる。 どのような住要求から今の住居の形になったのかを知り、それぞれの空間の役割を考えさせる。		住居の機能をカテゴリ別に分けるとどこにあたるのかを考える活動を通して、普段何気なく住居の機能を利用していることに気づく。 住要求は時代による変化だけではなく、特に現代では多様な価値観の違いにより差があることに留意して指導する。	
今後の授業展開・計画			
一度自分事に戻り、住要求と住居のつくり・空間の役割について整理する課題を用意する。 今後はヒートショックや地震等に関連させながら、快適・安全な住生活をおくるため、何を心掛けるべきかを考える活動を予定している。			

【21H】(課題発見型)

教科：地歴公民科	科目：世界史探究	授業者：	教室：21H教室
単元：第1編 第2章 4 古代末期の社会と地中海世界の解体		本時の主題：歴史の見方・考え方を探究する	
ねらいとする課題発見力（左の欄に○をつける）			
	① 情報に対して、自分なりの視点で注目することができるようになる		
○	② 注目した側面について、疑問・問いを立てることができるようになる		
本時における、おおまかな授業展開		想定される生徒の反応と、教師の声かけ	
①キリスト教とゾロアスター教をめぐる視点 ②「背教者」ユリアヌスをめぐる視点 以上の2点について、歴史認識はどのような視点に立つかによって変化することを理解し、歴史を複眼的にとらえるための見方・考え方を学ぶ機会とする。		私たちはおのずと、対象となるものが、キリスト教やヨーロッパ世界の形成・発展にとって「役に立っているかどうか」というフィルターがかかった歴史認識に陥りがちである。したがって、このようなフィルターがかかった歴史認識の問題点を「発見」できるような問いかけを行い、複眼的な歴史認識の重要性について指導する。	
今後の授業展開・計画			
次の「東アジア」の単元においても、どのように歴史が認識されてきたかが、重要な意味合いを持つことになる。本時の学習において発見した課題や疑問を念頭に置いた学習が展開できるよう取り組みたいと考える。			

【22H】(オンライン学習型)

教科：情報 I	科目：情報	授業者：	教室：22H
単元：コンピュータとプログラミング	本時の主題：Python での出力をマスターする		
つきたい探究力（該当するものに○）		そのために、 	オンラインでの学習環境を、
課題発見力			① 「ツール」として活用 ○
課題解決力	○		② 「学習形態」として活用
批判的思考力			
多面的分析力			
本時における、おおまかな授業展開		どのようにオンラインでの学習環境を活用するか	
ChromeBook から Google コラボラトリーを起動し、入力の方法を説明する。 入力の仕方により、出力結果が変わることを確認する。 文字列や数値の扱いの違い、外部入力や変数について学習する。 「Python 入門」を参考にし、4 人グループで活動してもらう。		Google コラボラトリーを用いることで、生徒が一斉に手を動かして活動できる。また、何度も繰り返し入力でき、施行を繰り返すことで入力の違いを感じることができる。	
		ねらいとする探究力をどのようにつけるか 「書き方」というものを提示して入力してみる、ということはずせず、4 人グループで書き方から調べてもらう。教科書やインターネットで調べ、思考することで問いに対する課題解決力を育む機会とする。	

【23H】(オンライン学習型)

教科：英語	科目：英コミ II	授業者：	教室：23H
単元：Lesson4 The Century of War	本時の主題：Life in a jar プロジェクトについて		
つきたい探究力（該当するものに○）		そのために、 	オンラインでの学習環境を、
課題発見力			① 「ツール」として活用 ○
課題解決力			② 「学習形態」として活用
批判的思考力			
多面的分析力	○		
本時における、おおまかな授業展開		どのようにオンラインでの学習環境を活用するか	
ワークシートの、教員が設定した設問に関してどのように答えたかの確認をペアで行う。 ↓ 教員が生徒を指名して、答え合わせをする。 ↓ 4 人グループを作り、分かったことや印象に残ったことを英語でグループのメンバーに説明する。		事前学習として、Life in a Jar に関するドキュメンタリーで知ることができそうなことを 3 つ予想し、Youtube で見て、分かったことや印象に残ったことをワークシートにまとめたうえで授業に臨む。	
		ねらいとする探究力をどのようにつけるか ドキュメンタリーの内容を予測することで分析力を鍛え、Youtube にある本物の題材を聞き取ってワークシートに答えを記入、また、グループメンバーに英語で説明するという活動を通して、言語能力を育てる。	

【24H】 / 【25H】

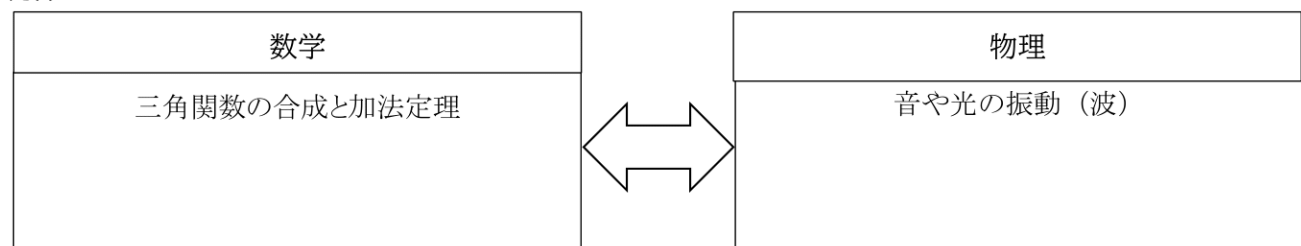
(オンライン学習型)

教科：数学	科目：数学Ⅱ	授業者：	教室：25H
単元：三角関数	本時の主題：正弦波と余弦波の足し合わせ		
つきたい探究力（該当するものに○）		そのために、 	オンラインでの学習環境を、
課題発見力			① 「ツール」として活用 ○
課題解決力	○		② 「学習形態」として活用
批判的思考力			
多面的分析力			
本時における、おおまかな授業展開		どのようにオンラインでの学習環境を活用するか	
① 三角関数のグラフについての動画を事前に視聴 ② 授業開始後すぐに、課題プリントに取り組む ③ ペアで議論する ④ グループで議論する ⑤ 発表する		三角関数のグラフについての解説動画を作成し、事前に視聴する「反転授業」の形でオンラインを活用する。	
		ねらいとする探究力をどのようにつけるか 主体的に数式からグラフを考察したり、概形を判断する活動時間を設けることで、粘り強く探究する力を育てる。	

(教科・科目・領域融合型)

教科・科目・領域； 数学・物理	授業者；	教室；24H
テーマ； 三角関数の合成と加法定理より学ぶ正弦波と余弦波の足し合わせ		
融合のねらい 三角関数の合成と加法定理の考察を通して、電気回路や音の振動など物理で必要なグラフを可視化しやすいようにする。また、関数の値を足し合わせることで、2つのグラフを足し合わせることを考察する。		
本時のねらい 三角関数の合成と加法定理を演算手法としてだけでなく、数式よりグラフの概形をイメージできるようにする。		

内容



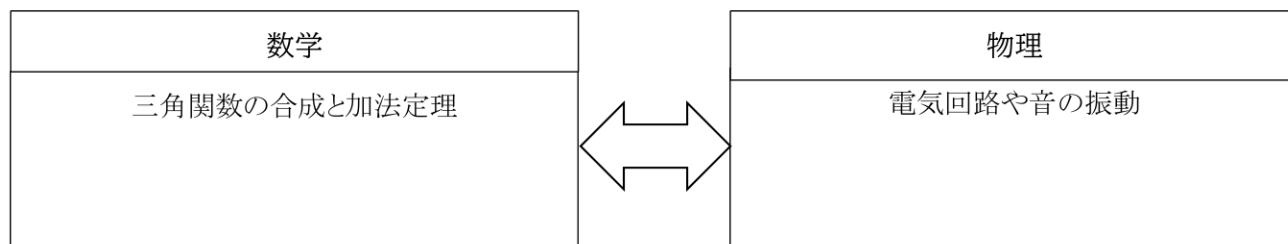
評価規準(○は該当する評価)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ 主体的に数式からグラフを考察したり、概形を判断しようとしていたりしている。		

（教科・科目・領域融合型）

教科・科目・領域； 数学・物理	授業者；	教室；25H
テーマ； 三角関数の合成と加法定理より学ぶ正弦波と余弦波の足し合わせ		
融合のねらい 三角関数の合成と加法定理の考察を通して、電気回路や音の振動など物理で必要なグラフを可視化しやすいようにする。		
本時のねらい 三角関数の合成と加法定理を演算手法としてだけでなく、数式よりグラフの概形をイメージできるようにする。		

内容



評価規準（○は該当する評価）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・主体的に数式からグラフを考察したり、概形を判断しようとしていたりしている。		

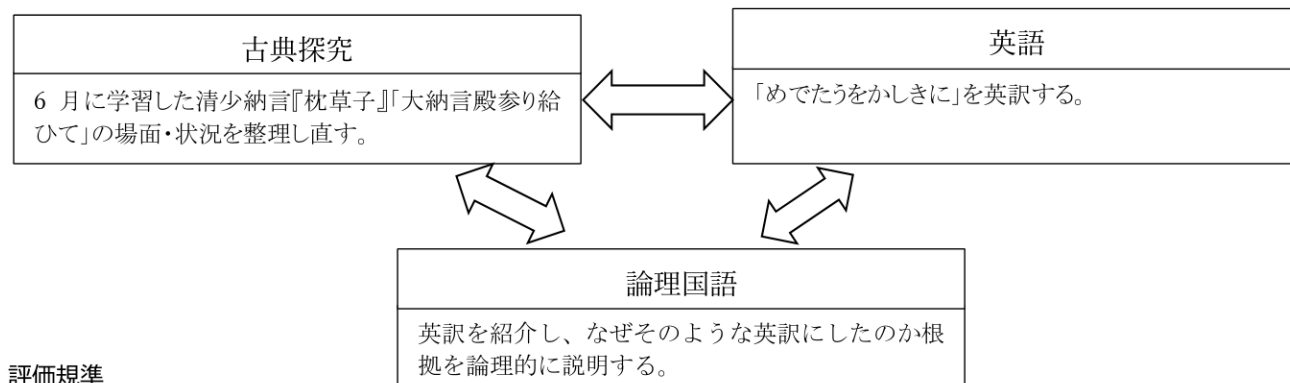
【26H】（課題発見型）

教科：地歴公民	科目：公共	授業者：	教室：2 6 H
単元：自立した主体として社会に参画する私たち		本時の主題：内閣のしくみと役割	
ねらいとする課題発見力（左の欄に○をつける）			
	① 情報に対して、自分なりの視点で注目することができるようになる		
○	② 注目した側面について、疑問・問いを立てることができるようになる		
本時における、おおまかな授業展開		想定される生徒の反応と、教師の声かけ	
前時“国会のしくみと役割”を踏まえ、本時では「なぜ議員立法より内閣提出法案の方が成立件数が多い」ことについて考える。生徒は仮説を立て、検証していく。		・内閣提出法案の方が、法律に詳しくたり、情報をより多く持っている官僚が作る分、成立しやすいのではないかな。 ・議員立法は、法案成立の条件が厳しいのではないかな。	
今後の授業展開・計画			
①前時“国会のしくみと役割”を確認			
②本時“内閣のしくみと役割”の用語を確認する。			
③ 「議会立法より内閣提出法案の方が成立件数が多い」理由について仮説を立てて、検証する。			

【27H】(教科・科目・領域融合型)

教科・科目・領域； 古典探究 × 英語 × 論理国語	授業者；	教室；27H教室
テーマ；「をかし」の意味を論理的に説明する		
融合のねらい 古典の学習が進むと、生徒は覚えた意味を機械的に置き換えるようになる(「をかし」⇒趣深い)。しかし、これはある意味、思考停止と言える。今回は日本人特有の言葉の意味を問い直し、かつ、自分の考えを効果的に他者に伝える機会としたい。 本時のねらい 『枕草子』の「をかし」を英語に翻訳することを通じて、「をかし」という極めて日本的な言葉の意味を問い直す。また、なぜそのような英訳にしたのか論理的に根拠を表現することができる。		

内容



評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ワークシートの【根拠】の記述によって評価する。		

【28H】(課題発見型)

教科：保健体育	科目：保健	授業者：	教室：28H
単元：働くことと健康		本時の主題：働き方の多様化や働く環境における今日的課題を発見する。	
ねらいとする課題発見力（左の欄に○をつける）			
○	① 情報に対して、自分なりの視点で注目することができるようになる		
	② 注目した側面について、疑問・問いを立てることができるようになる		
本時における、おおまかな授業展開		想定される生徒の反応と、教師の声かけ	
① 働くこと（労働）の意義と働き方の変化、働く人における健康問題の現状を理解する。 ② 働き方の多様化（フレックスタイム等）や職場の環境について調べる。 ③ 働き方の多様化や職場の環境が、健康にどのように影響を与えるかを個人で考え、ペアで話し合い、まとめる。		・ どのような働き方があるのか、また現在の職場環境がどのように変化しているのか、イメージできない生徒もいるので、事例等を示し支援する。 ・ 自分が将来見据えたライフプランと照らし合わせて、働き方によってどのような課題が生じるかをイメージさせる。	
今後の授業展開・計画			
・ 労働災害が発生した事例をもとに、労働環境を改善し、安全な職場の整備を推進するための方策を考える。 ・ 職場の健康管理や心身両面にわたる対策の重要性について、労働と健康に関する法律等が制定された背景や余暇の有効活用について理解する。			

【31H】(オンライン学習型)

教科：地理歴史	科目：世界史探究	授業者：	教室：多目的AB
単元：フランス革命とウィーン体制	本時の主題：フランス革命（勃発～国民公会）		
つきたい探究力（該当するものに○）		そのために、 	オンラインでの学習環境を、
課題発見力	論理的思考力		① 「ツール」として活用 ○
課題解決力	主体性・協働性		
批判的思考力	言語能力		② 「学習形態」として活用
多面的分析力			
本時における、おおまかな授業展開		どのようにオンラインでの学習環境を活用するか	
「フランス革命が勃発した背景を整理しよう」 導入 既習事項の復習（個人・ペア） 展開 ・フランス革命の展開についての講義 ・フランス革命に関する諸資料から当時のフランスの人々の要求を考える ・考えた内容を GoogleForms から回答するその後全体で共有		授業中に個人・ペア単位で資料から読み取った内容を GoogleForms を利用して即時的に共有を行い、クラス全体での理解を促す。	
		ねらいとする探究力をどのようにつけるか ・資料から当時の人々の政治的な要求や利害関係について理解し、適切な言葉で表現する力をつける。	

【32H】(課題発見型)

教科：理科	科目：地学	授業者：	教室：3 2H
単元：大気と海洋		本時の主題：地球の熱収支	
ねらいとする課題発見力（左の欄に○をつける）			
○	① 情報に対して、自分なりの視点で注目することができるようになる		
	② 注目した側面について、疑問・問いを立てることができるようになる		
本時における、おおまかな授業展開		想定される生徒の反応と、教師の声かけ	
地球全体の熱収支はつりあっているものの、緯度・季節により地域的に収支のバランスが崩れ、気温が変化する。この内容を復習し、いくつかの問いに対して時間変化に対して気温変化がどのようになるか考えさせる。		高緯度では太陽放射より地球放射が上回ることなどは、感覚的に分かる生徒が多い。翻字は、高緯度の方が低緯度より低温になることを深く考えさせたい。ペアワーク、グループワークで他人の視点も参考にしながら推察させたい。	
今後の授業展開・計画			
正の相関、負の相関の考え方を理解し、気候変動への関心を高めさせたい。			

【33H】 / 【37H】 / 【38H】

(課題発見型)

教科：保健体育	科目：体育	授業者：	教室：テニスコート
単元：テニス		本時の主題：作戦をたててゲームを行う	
ねらいとする課題発見力（左の欄に○をつける）			
	① 情報に対して、自分なりの視点で注目することができるようになる		
○	② 注目した側面について、疑問・問いを立てることができるようになる		
本時における、おおまかな授業展開		想定される生徒の反応と、教師の声かけ	
・体操、トレーニング ・ペア決め・ラリー練習 ・ゲーム ・振り返り		・フォア、バックなど自分の苦手な打ち方を意識させて練習をする。 ・作戦が具体的なものか思考する。 ・声をかけながらプレーをする。	
今後の授業展開・計画			
・ゲームの中で、個人・ペアの課題解決を図る。			

【33H】 / 【37H】 / 【38H】

(課題発見型)

教科：保健体育	科目：体育	授業者：	教室：第1体育館
単元：バレーボール		本時の主題：相手に応じた作戦を立て実践する	
ねらいとする課題発見力（左の欄に○をつける）			
	① 情報に対して、自分なりの視点で注目することができるようになる		
○	② 注目した側面について、疑問・問いを立てることができるようになる		
本時における、おおまかな授業展開		想定される生徒の反応と、教師の声かけ	
・体操、トレーニング ・前回の試合の振り返り（課題）を確認 ・グループ練習（振り返りをもとに、内容考える） ・作戦、ゲーム		・前回のゲームをもとに、課題を見つけるように声掛け ・バレー経験者だけの意見だけを拾うのではなく、メンバーで話し合えるようにする	
今後の授業展開・計画			
・ゲームにおける展開や、課題を解決できるような取り組みを考え実践できるようにする			

【34H】 / 【35H】

(課題発見型)

教科：理科	科目：物理	授業者：	教室：物理実験室
単元：静電気力		本時の主題：箔検電器	
ねらいとする課題発見力（左の欄に○をつける）			
○	① 情報に対して、自分なりの視点で注目することができるようになる		
	② 注目した側面について、疑問・問いを立てることができるようになる		
本時における、おおまかな授業展開		想定される生徒の反応と、教師の声かけ	
身近な静電気現象から導入し、実際に箔検電器を用いて帯電物体による金属箔の開閉を観察することで、電荷の存在や移動、同種の電荷の反発といった静電気の基本的な性質を視覚的に理解させ、グループ実験と考察を通じて電気現象の見える化と論理的な思考力の育成を図る。		どうして 金属箔が開く の？ → 電荷の移動や同種の電荷同士の反発が原因であることをこれまでの知識から考えさせる 触っていないのに 動くのはなぜ ？ → 誘導による帯電や、電荷の偏りという見えない現象を電荷のモデルを使って見出させる。	
今後の授業展開・計画			
電場と電位について学ぶ。			

【34H】 / 【35H】

(オンライン学習型)

教科：理科	科目：物理	授業者：	教室：物理講義室
単元：コンデンサ	本時の主題：コンデンサの接続		
つきたい探究力（該当するものに○）		そのために、 	オンラインでの学習環境を、
課題発見力	論理的思考力	○	① 「ツール」として活用
課題解決力	主体性・協働性	○	
批判的思考力	言語能力		② 「学習形態」として活用
多面的分析力			○
本時における、おおまかな授業展開		どのようにオンラインでの学習環境を活用するか	
<事前学習> ・各自家庭等で動画を視聴して、中学校や物理基礎での既習事項について事前学習を行う <授業> ・事前学習の内容について、まとめを行う ・本時の主題について、事前学習をもとに考察する ・本時の主題について、まとめを行う ・発展問題について考察、Peer instruction を行う		・物理ポータルサイトにアップされた動画を利用して「中学校での既習事項」「物理基礎での既習事項」「基本的知識」「基本的な物理量の定義」「誤概念」などについて、各自家庭等で事前学習する。	
		ねらいとする探究力をどのようにつけるか	
		・中学校や物理基礎での既習事項と対比して、本時の主題であるコンデンサの接続について考える（論理的思考力） ・Peer instruction を通して、主体性・協働性を発揮しながら、判断力・表現力を伸長させる（主体性・協働性）	

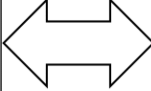
【34H】 / 【35H】

(教科・科目・領域融合型)

教科・科目・領域融合型授業デザインシート (2科目用のシート)

教科・科目・領域; 物理×生物	授業者;	教室; 35H
テーマ; 生体電気		
融合のねらい 物理と生物は選択科目であり、物理選択者は生物を学ぶことはない。しかし、生命現象の説明に物理の考え方が用いられることを知り、物理における学びの汎用性を学ぶ機会とする。		
本時のねらい 神経細胞の電気信号の伝達について、物理における「電場・電位」の学びを活かして理解する。また、それが社会でどのように活用されているかを知り、物理を学ぶ意義を実感する。		

内容

物理(既習内容)	生物(本時)
電荷の周りには電場ができており、電位を考 えることができる。 電荷は外部の電場から静電気力を受ける。	 演示実験から、刺激の伝達が電流であることを理解する。電流の正体は何かを学び、他の分野でどのように応用されているかを知る。

評価規準(○は該当する評価)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生徒の振り返りシートの記述によって評価する。		

【3限】

【11H】(課題発見型)

教科：数学	科目：数学Ⅰ	授業者：	教室：11H 教室
単元：2次方程式		本時の主題：方程式の解とグラフ	
ねらいとする課題発見力（左の欄に○をつける）			
○	① 情報に対して、自分なりの視点で注目することができるようになる		
	② 注目した側面について、疑問・問いを立てることができるようになる		
本時における、おおまかな授業展開		想定される生徒の反応と、教師の声かけ	
① 2次方程式の解と2次関数のグラフの関連について理解する。 ② 2次方程式の解の個数について、判別式を用いる方法と2次関数のグラフ（定数分離）を用いる方法を提示する。 ③ 解の個数の判別においてどのようなときにグラフを用いた方法が有効か考える。		① ②ジオジブラを用いてグラフを表示するよう声かけする。 ③ 高次の方程式でも活用できる、 x の範囲があっても活用できる、などある。生徒のほうから定数が分離できない場合はどうするか、など疑問が上がるとなおよい。	
今後の授業展開・計画			
・今後も方程式の解についてグラフを用いて考えることが多くなる（解の配置問題など）ことを伝える。			

【12H】(課題発見型)

教科：理科	科目：化学基礎	授業者：	教室：12H
単元：物質質量と化学反応式		本時の主題：化学反応式の種類	
ねらいとする課題発見力（左の欄に○をつける）			
○	① 情報に対して、自分なりの視点で注目することができるようになる		
	② 注目した側面について、疑問・問いを立てることができるようになる		
本時における、おおまかな授業展開		想定される生徒の反応と、教師の声かけ	
各班に課題として化学反応式を与える。 （文章の状態で与える。） 課題① 与えられた化学反応式を立て、そのつくり方について説明せよ。 課題② この反応式はどの種類の反応と言えるか。 （なぜ反応が起こるのか？）説明せよ。 課題③ 実際の実験の様子を説明せよ。 また、この反応は世の中にどう生かされているのか、具体的に説明せよ。 各班で Google スライドにまとめさせる。 課題①②に関しては、一人一枚スライド。課題③は二人で一枚スライドとする。 各々が担当したスライドについて、説明し合い、担当の化学反応について深めてもらう。		<u>課題①に関して</u> なぜその立て方をしたのか言語化できない。 ⇒ほかの化学反応式と比較して考えさせる。 <u>課題②に関して</u> 反応式の種類について未習のため、なかなか出てこない。 ⇒こちらから資料を提示し、そこから広げてもらう。 今後の化学につながる事項になるので、そこで出てくる化学用語やキーワードについて深めてもらう。 <u>課題③に関して</u> ただインターネット等で調べるのみで実際の実験のイメージがついていない。 ⇒反応物の物質の状態や性質をまず確認させる。 それを踏まえて考えさせる。 ⇒具体例に関しては、こちらも今後の化学につながってくるので、より詳しく理解するよう声掛けをする。	
今後の授業展開・計画			
班をローテーションさせながら、すべての化学反応について説明し合い、共有する。 化学反応式を「式」として捉えるのではなく、実際の化学反応であることに注目させていく。 また、今後、化学で取り扱う重要な内容が出てくるため、こちらからも説明を入れ、理解を深めてもらう。			

【13】【14H】(課題発見型)

教科：保健体育	科目：体育	授業者：	教室：グラウンド
単元：ソフトボール		本時の主題：これまで習得した技術を試合で生かす	
ねらいとする課題発見力（左の欄に○をつける）			
	① 情報に対して、自分なりの視点で注目することができるようになる		
○	② 注目した側面について、疑問・問いを立てることができるようになる		
本時における、おおまかな授業展開		想定される生徒の反応と、教師の声かけ	
体操、トレーニング、ランニング キャッチボール 試合		自身の体力向上のため、しっかり丁寧に実施させる。 守備の課題を意識しながら、取り組ませる。 各場面での次のプレーを意識した準備、想定を意識させる。	
今後の授業展開・計画			
試合の中で、個人の課題、チームの課題解決を図る。			

【15H】(課題発見型)

教科：英語	科目：英コミ I	授業者：	教室：15H 教室
単元：Lesson 3 Bye Bye Plastics		本時の主題：身の回りの問題についてやりとりをする	
ねらいとする課題発見力（左の欄に○をつける）			
○	① 情報に対して、自分なりの視点で注目することができるようになる		
	② 注目した側面について、疑問・問いを立てることができるようになる		
本時における、おおまかな授業展開		想定される生徒の反応と、教師の声かけ	
①Lesson 3 の内容を振り返る		① 2 人の姉妹がどの問題についてどう取り組んだかを思い出させ、本時の活動にイメージを持たす。	
②身の回りの問題について考える		②自分の家庭、地域、地球など様々なスケールで考えさせる。オンライン上でアイデアを共有させる。	
③ 1 つ問題を選び、原因・解決策等を英語で考える		③クロムブックを活用させながら、ワークシートに記入させる。	
④ペアで考えたことを「やりとり」する		④「やりとり」のモデルを示す。	
今後の授業展開・計画			
次回の授業で良い例を全員に共有する			

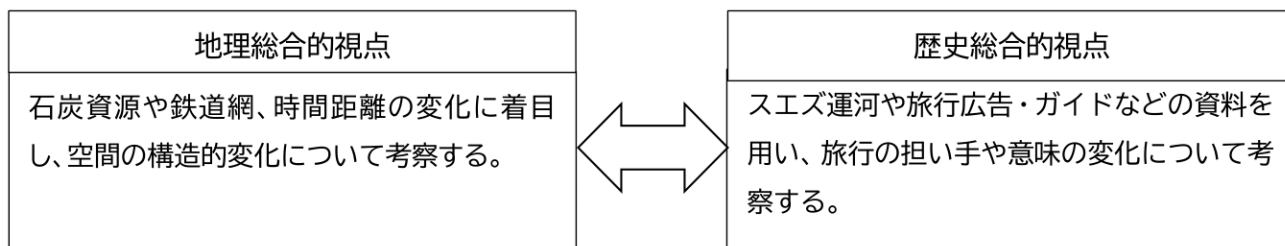
【16H】(課題発見型)

教科：数学	科目：数学 I	授業者：	教室：1 6H
単元：関数のグラフと不等式		本時の主題：グラフを利用して解を不等式の解を求める	
ねらいとする課題発見力（左の欄に○をつける）			
○	① 情報に対して、自分なりの視点で注目することができるようになる		
	② 注目した側面について、疑問・問いを立てることができるようになる		
本時における、おおまかな授業展開		想定される生徒の反応と、教師の声かけ	
絶対値を含む不等式を解く グラフを利用して、絶対値を含む不等式の解について調べる 発展した問題について取り組み、グラフでも解を確認する。		絶対値を含むことで、解を求めることができない 絶対値の定義について再確認するように伝える 先に計算で求めた解がグラフの上下関係に関連していることに気づく。	
今後の授業展開・計画			
グラフソフトを利用して方程式や不等式の解を求めていく。 より発展的な問題に取り組んでいく。 気づいたこと・わかったことをまとめレポートを作成する。			

【17H】(教科・科目・領域融合型)

教科・科目・領域; 地理総合×歴史総合	授業者;	教室;17H教室
テーマ; 石炭が旅を変えた ～産業革命と旅行の近代化～		
融合のねらい 「旅行」という身近な例を題材に、産業革命による影響を「空間の変化」と「社会の変化」の視点から多面的にとらえる。		
本時のねらい 産業革命による技術革新によって、人々の生活や社会がどのように変化したかについて多面的に考察する。		

内容



評価規準(○は該当する評価)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
複数資料の読み取りから、産業革命による技術革新によって人々の生活や社会の変化について考察し、文章で表現することができる。		

【18H】(オンライン学習型)

教科: 国語	科目: 現代の国語	授業者:	教室: 18H
単元: 自分の考えを明確にし、相手の反応を予想しながら、話の展開を工夫しよう。		本時の主題: 「まちの豊かさとは何か」の叙述をベースとして自己の考えを聞き手を想定して伝える。	
つきたい探究力(該当するものに○)		そのために、 ➡	オンラインでの学習環境を、
課題発見力	論理的思考力		① 「ツール」として活用 ○
課題解決力	主体性・協働性		② 「学習形態」として活用
批判的思考力	言語能力		
多面的分析力 ○			
本時における、おおまかな授業展開		どのようにオンラインでの学習環境を活用するか	
本時の課題: 教科書教材・追加資料を通して得られた自己の考えを相手の反応を予測しながら、伝わり易い展開を考えて発表する。 導入 教科書と追加資料の内容が少し違うことを確認。 展開① 追加資料を加えた筆者の意見を参考にして、ワークシートに自分の考えをまとめる。 展開② 自分の考えを展開を意識してグループ内で発表する。 まとめ グループ内で出た意見をふまえて自己評価する。		教科書の叙述に関連した追加資料を手に入れる道具として活用する。 ねらいとする探究力をどのようにつけるか 筆者の意見をベースにしながらも多角的に検証した自己の意見を的確に伝える力を身につける。	

【21H】(課題発見型)

教科：国語	科目：古典探究	授業者：	教室：多目的講義室CD
単元：「すさまじきもの」『枕草子』		本時の主題：似た語感を持つ古文単語の差異を読み取る	
ねらいとする課題発見力（左の欄に○をつける）			
○	① 情報に対して、自分なりの視点で注目することができるようになる		
	② 注目した側面について、疑問・問いを立てることができるようになる		
本時における、おおまかな授業展開		想定される生徒の反応と、教師の声かけ	
①『枕草子』類聚の章段を題材にして「マイナスの語感を持つ古文単語への理解を深める」という本時の課題を知る。		・②は意味合いが異なる古文単語であるため、比較的容易に解答できると思われる。③に向けての練習問題の位置づけである。	
②「むつかしげなるもの」と「わびしげに見ゆるもの」の現代語訳を読み比べ、その内容からそれぞれの章段の表題となる古文単語がどちらなのか推測する。		・③は、古文単語の意味として「きまり悪い」が重複しており、挙げられている事例も一部重複しているため、判断が難しい。そこで、共通点と相違点を整理させ、相違点から判断するよう助言する。	
③「はしたなきもの」と「かたはらいたきもの」の現代語訳を読み比べ、2つの章段の共通点、相違点に着目し、それぞれの章段の表題となる古文単語がどちらなのか推測する。		・③の活動の後、改めて「はしたなし」と「かたはらいたし」の違いについて考えさせる。「はしたなし」は中途半端で体裁が悪いこと、「かたはらいたし」は <u>そばにいてこちらまで気恥ずかしく、なんとかしたいけれど口出しできずにはらはらして困る</u> ような状態を指していることを確認する。	
④「はしたなし」と「かたはらいたし」の意味合いの違いについて考える。			
今後の授業展開・計画			
本単元の「すさまじきもの」を読み、古文単語の「すさまじ」に対して、「興ざめなもの」という辞書的な訳に加えて、期待はずれなことに対して興ざめである状態を指した言葉であることを、文章を通して理解する。			

【22H】(オンライン学習型)

教科：英語	科目：論表Ⅱ	授業者：	教室：22H教室
単元：過去形や仮定法を活かして英作文に挑戦	本時の主題：観光客が日本に増えることについての是非を英作文で表現する。		
つきたい探究力（該当するものに○）		そのために、 	オンラインでの学習環境を、
課題発見力	論理的思考力		① 「ツール」として活用 ○
課題解決力	主体性・協働性 ○		
批判的思考力	言語能力 ○		② 「学習形態」として活用
多面的分析力			
本時における、おおまかな授業展開		どのようにオンラインでの学習環境を活用するか	
訪日外国人が年々増えているグラフを示す。 グラフを見て、わかることを英語で話す。 次に、訪日外国人が増えることのメリットデメリットを調べて書き出す。書き出したものを基に、ペアでそれぞれが得た情報を共有する。 共有した情報を基に、ドキュメントを使い賛成派、反対派のどちらか自分の意見をはっきりさせた文章をまとめて提出。		Chromebook で調べ活動を行うことにより、その後の話し合いやライティング活動を、集めたデータを基にスムーズに行えるようにする。	
		ねらいとする探究力をどのようにつけるか	
		データ収集ののちにライティング活動に入らせることで論理的な思考力を身につけさせ、学習した表現をうまく使用できるような言語能力を教育する。	

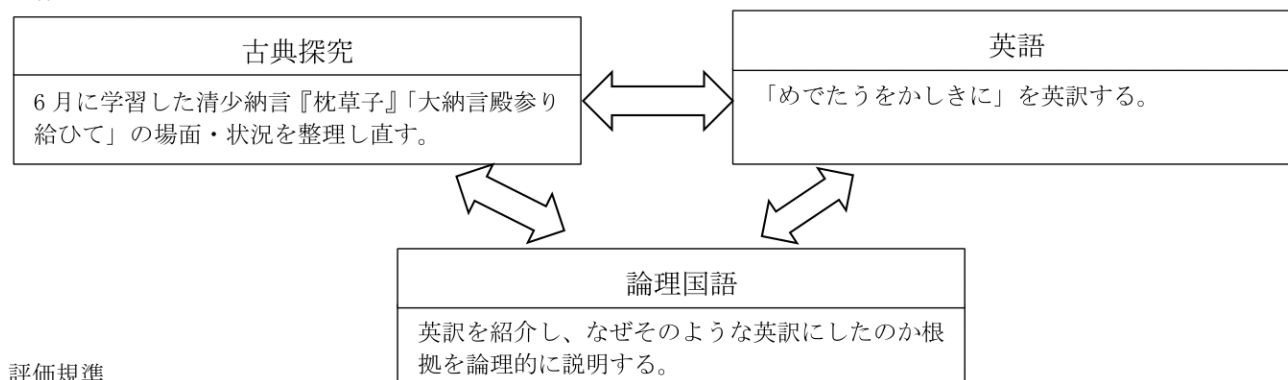
【22H】(オンライン学習型)

教科：英語	科目：論理表現Ⅱ	授業者：	教室：多目的講義室 AB
単元 Lesson 4	本時の主題：利点と欠点を比較し、自分の意見を述べる		
つきたい探究力（該当するものに○）		そのために、 	オンラインでの学習環境を、
課題発見力	論理的思考力		① 「ツール」として活用 ○
課題解決力	主体性・協働性		
批判的思考力	言語能力		② 「学習形態」として活用
多面的分析力			
本時における、おおまかな授業展開		どのようにオンラインでの学習環境を活用するか	
1. 訪日外国人旅行者の数の変化をグラフから読み取る 2. 訪日外国人旅行者が増えることのメリット、デメリットを考える。 ＊必要に応じてクロムブックで情報を検索する 3. メリット・デメリットをペアで確認する。 4. “Would you like to welcome more tourists to your town? Why or why not?” の問いに対する自分の意見を書く。 5. ペアまたはグループで意見を交換し classroom で提出する		訪日外国人旅行者が増えることのメリット、デメリットについて情報を検索する。 課題を提出する	
		ねらいとする探究力をどのようにつけるか	
		インターネットを活用して情報を集め、メリットデメリットを比較することで、論理的に意見を述べる力をつける。	

【23H】(教科・科目・領域融合型)

教科・科目・領域； 古典探究 × 英語 × 論理国語	授業者；	教室； 23H教室
テーマ； 「をかし」の意味を論理的に説明する		
融合のねらい 古典の学習が進むと、生徒は覚えた意味を機械的に置き換えるようになる（「をかし」⇒趣深い）。しかし、これはある意味、思考停止と言える。今回は日本人特有の言葉の意味を問い直し、かつ、自分の考えを効果的に他者に伝える機会としたい。		
本時のねらい 『枕草子』の「をかし」を英語に翻訳することを通じて、「をかし」という極めて日本的な言葉の意味を問い直す。また、なぜそのような英訳にしたのか論理的に根拠を表現することができる。		

内容



評価基準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ワークシートの【根拠】の記述によって評価する。		

【24H】(課題発見型)

教科：理科	科目：化学	授業者：	教室：24H
単元：気体		本時の主題：実在気体	
ねらいとする課題発見力（左の欄に○をつける）			
○	① 情報に対して、自分なりの視点で注目することができるようになる		
	② 注目した側面について、疑問・問いを立てることができるようになる		
本時における、おおまかな授業展開		想定される生徒の反応と、教師の声かけ	
温度一定で、圧力を変化させた場合の気体の様子の変化をグラフに表し、その様子から、ボイルの法則とその式を導く。 圧力一定で、温度を変化させた場合の気体の様子の変化を式で表し、式からグラフの概形を表し、シャルルの法則を紹介する。 実在気体と理想気体の説明を簡単に行い、実在気体ではグラフがどのように変化するか、状態図や蒸気圧曲線の様子から予想する。		反 応：どのようにグラフをかけばよいかわからない。 声かけ：圧力か、温度を一定にして、変数を減らしてグラフをかいてみましょう。 声かけ：今、考えている変化の様子を簡単に言葉に直してからグラフをかいてみましょう。	
今後の授業展開・計画			
ボイルの法則や、シャルルの法則をもとに、気体の状態方程式を導く。気体の状態方程式から、分子量を導く実験計画を通して、			

【25H】

教科：外国語（英語）	科目：英語コミュニケーションⅡ	授業者：	教室：25H教室
単元：Lesson4 The Century of War		本時の主題：世界平和への取り組みについて考える	
ねらいとする課題発見力（左の欄に○をつける）			
○	① 情報に対して、自分なりの視点で注目することができるようになる		
○	② 注目した側面について、疑問・問いを立てることができるようになる		
本時における、おおまかな授業展開		想定される生徒の反応と、教師の声かけ	
・4人1グループを作り、世界平和に向けてどのような取り組みがなされているのかを、国連・日本・石川県・小松市(他の市町村でも)それぞれのレベルで調べ、スライドを作成し、英語で発表する。 ・個人レベルで今後世界平和に向けてどのように取り組むことができるかをグループ内で英語で話し合い、レポートにして提出し、全体で共有する。		・専門用語がある程度出てくることが予想されるので、辞書や検索などで調べてもよいことを伝える。 ・個人レベルでできることを考える際、すぐ調べるのではなく、今までの経験の中で何か出てこないか考えさせる。	
今後の授業展開・計画			
Lesson4の英文が1942～1943年の、まさに第2次世界大戦中のドイツでのストーリーなので、約80年前の出来事について読み、意見交換をすることで、世界平和への思いをさらに強くしてもらえたらと考えている。			

【26H】 / 【27H】（課題発見型）

教科：数学	科目：数学B	授業者：	教室：27H
単元：数列		本時の主題：フィボナッチ数	
ねらいとする課題発見力（左の欄に○をつける）			
○	① 情報に対して、自分なりの視点で注目することができるようになる		
	② 注目した側面について、疑問・問いを立てることができるようになる		
本時における、おおまかな授業展開		想定される生徒の反応と、教師の声かけ	
・フィボナッチ数を紹介する。 ・フィボナッチ数から想定される性質を個人で考え、グループで共有する。 ・可能ならば、見つけた性質を証明する。		・簡単に見つからないと予想されるため、いくつかヒントを用意しておく。 ・各グループででた性質を全体で共有する。 ・証明できたグループがあれば全体で共有する。	
今後の授業展開・計画			
・数列を学ぶ上で、自ら性質を考察することを第一に指導してきた。解答の手法を覚えるだけではなく、自ら問を立てるような生徒を今後も育成していきたい。			

【26H】 / 【27H】（課題発見型）

教科：数学	科目：数学B	授業者：	教室：26H
単元：数列		本時の主題：フィボナッチ数	
ねらいとする課題発見力（左の欄に○をつける）			
○	③ 情報に対して、自分なりの視点で注目することができるようになる		
	④ 注目した側面について、疑問・問いを立てることができるようになる		
本時における、おおまかな授業展開		想定される生徒の反応と、教師の声かけ	
・フィボナッチ数を紹介する。 ・フィボナッチ数から想定される性質を個人で考え、グループで共有する。 ・可能ならば、見つけた性質を証明する。		・簡単に見つからないと予想されるため、いくつかヒントを用意しておく。 ・各グループででた性質を全体で共有する。 ・証明できたグループがあれば全体で共有する。	
今後の授業展開・計画			
・数列を学ぶ上で、自ら性質を考察することを第一に指導してきた。解答の手法を覚えるだけではなく、自ら問を立てるような生徒を今後も育成していきたい。			

【28H】(課題発見型)

教科：英語	科目：英コミⅡ	授業者：	教室：28H
単元：ELEMENT Lesson 4 The Century of War		本時の主題：	
ねらいとする課題発見力（左の欄に○をつける）			
	① 情報に対して、自分なりの視点で注目することができるようになる		
○	② 注目した側面について、疑問・問いを立てることができるようになる		
本時における、おおまかな授業展開		想定される生徒の反応と、教師の声かけ	
本文の登場人物であるイレーナ・センドラーのように、平和に貢献した世界の人物に関してグループで調査し、発表する。発表者以外のグループは発表したグループの評価を行う。活動を通して、平和な将来のために人は何をすべきかについて考える。		調査したことをわかり易く伝えるとともに、聞き手が興味を抱くような発表をできるよう指導したい。また、平和に貢献した世界の人物と彼らが行ったこと、そしてその背景について共有させたい。	
今後の授業展開・計画			
本文の登場人物や戦時中の社会についてより深く理解するとともに、平和について考えさせたい。			

【31H】【32H】【33H】

(課題発見型)

教科：数学	科目：数学実践文α	授業者：	教室：31H
単元：数列の応用		本時の主題：格子点の数を数える	
ねらいとする課題発見力（左の欄に○をつける）			
○	① 情報に対して、自分なりの視点で注目することができるようになる		
	② 注目した側面について、疑問・問いを立てることができるようになる		
本時における、おおまかな授業展開		想定される生徒の反応と、教師の声かけ	
様々な領域に含まれる格子点の数を数える。 隣り同士やグループで数え方の工夫を話し合わせる。		でたために数えるのではなく規則的に数える方法を工夫するようになる。 生徒なりに工夫して格子点の数を数えられるようになる。	
今後の授業展開・計画			
今回考えた他にも数え方があるかを考えさせる。			

【31H】【32H】【33H】

(課題発見型)

教科：数学	科目：数学実践α	授業者：	教室：33H
単元：数列		本時の主題：規則性を見つけて立式する	
ねらいとする課題発見力（左の欄に○をつける）			
○	① 情報に対して、自分なりの視点で注目することができるようになる		
	② 注目した側面について、疑問・問いを立てることができるようになる		
本時における、おおまかな授業展開		想定される生徒の反応と、教師の声かけ	
身近な題材を提示し、規則性を考えさせる。 具体的な場合から確認し、その後文字を用いて立式する。 立式した漸化式を解いて一般項を求める。		具体的に数えたり、図を用いて規則性を考える。 式で規則性を表せなくても、次にどのような数が現れるかを口頭で説明できるか確認する。	
今後の授業展開・計画			
他の題材でも、規則性を見つけて立式する練習を行う。			

【31H】【32H】【33H】

(課題発見型)

教科：数学	科目：数学実践文α	授業者：	教室：3 1 H
単元：数列		本時の主題：格子点の数を求める	
ねらいとする課題発見力（左の欄に○をつける）			
	① 情報に対して、自分なりの視点で注目することができるようになる		
○	② 注目した側面について、疑問・問いを立てることができるようになる		
本時における、おおまかな授業展開		想定される生徒の反応と、教師の声かけ	
・具体的に図がかけられる領域で、格子点を数える。 ・領域が広がったときに、どう数えるか考える。 ・文字などが入った場合にはどう数えるか考える。 ・領域の形に対して、どう数えるのが最適か考える。		・数えるときに、指差しで数えるときの指の動きに注目させる。 ・いきなりΣで書かずに、具体的に＋で書いた後にΣに直すようにして、どう数えたかが分かりやすいように指導する。	
今後の授業展開・計画			
今回の授業を通じて、具体的な数字から考えることで、抽象的な問題についても規則性から立式できるということを学ぶ。今後問題を解く際にも、まずは具体的に考える、という指導を行う。			

【31H】【32H】【33H】

(課題発見型)

教科：数学	科目：数学実践文α	授業者：	教室：進路学習室
単元：数列		本時の主題：格子点	
ねらいとする課題発見力（左の欄に○をつける）			
○	① 情報に対して、自分なりの視点で注目することができるようになる		
	② 注目した側面について、疑問・問いを立てることができるようになる		
本時における、おおまかな授業展開		想定される生徒の反応と、教師の声かけ	
格子点の個数を求める問題に対し、 x=k、y=k それぞれで考えて個数を求める。 ①境界線がすべて格子点になっている場合 ②境界線に格子点ではない点が含まれている場合 （③境界線が曲線）※様子を見て提示		・座標軸上の点を正しく数え上げられていない、k=0 のときのΣ計算の扱いがうまくできない生徒が予想される。 ・x=k、y=k のどちらが有用性が高いのか、どこで判断し、使い分けるべきか考えるよう声をかける。 ・長方形を利用する解法が生徒から出れば全体で共有する。出なければヒントを与える。	
今後の授業展開・計画			
紹介できなかった図形や数え方を次時で扱い、格子点の数え方の工夫についての理解を深める。			

【34H】(オンライン学習型)

教科：国語	科目：論理国語	授業者：	教室：34H教室
単元：文の表現の仕方から段落構造を工夫して、 自分の主張が的確に伝わるようにしよう。	本時の主題：「書物の近代」の叙述の仕方を参考にして、 小学校教科書の電子化の進行について意見を書こう。		
つきたい探究力（該当するものに○）		そのために、 	オンラインでの学習環境を、
課題発見力			① 「ツール」として活用 ○
課題解決力			② 「学習形態」として活用
批判的思考力	①		
多面的分析力			
本時における、おおまかな授業展開		どのようにオンラインでの学習環境を活用するか	
★本時は単元計画における初回の授業である。 本時の課題： 小学校教科書の電子化の進行について、自分の考えを400字程度の意見文にまとめよう。 ・導入 本時の課題を知り、学習活動内容を確認する。 ・展開① 意見文を書き、「質問」機能にコメントで入力。 ・展開② 他者の意見文を読み、批判的なコメントを入力。 ・展開③ 他者のコメント読み、意見文を修正・改善する。 ・まとめ 修正した意見文を「課題」機能に提出する。		①Google Classroomの「質問」機能を用いて、各自が書いた意見文（400字程度）に対し、批判的コメントを返す。 ②コメントを参考に各自が自身の意見文を修正・改善し、「課題」機能を用いて、意見文（400字）を提出させる。	
		ねらいとする探究力をどのようにつけるか	
		①クラスメイトが書いた意見文に対し批判的なコメントを返すことで、物事を批判的に見る力を育成する。 ②批判を受け、自身の意見文の論理性を高めようとする中で、論理的思考力を育成する。	

【35H】(オンライン学習型)

教科：英語	科目：英コミⅢ	授業者：	教室：35H
単元：Lesson 6 A class from Stanford University		本時の主題：少ない資源で価値を生む方法を考え、英語で伝える。	
つきたい探究力（該当するものに○）		そのために、 	オンラインでの学習環境を、
課題発見力			① 「ツール」として活用 ○
課題解決力	○		② 「学習形態」として活用
批判的思考力			
多面的分析力			
本時における、おおまかな授業展開		どのようにオンラインでの学習環境を活用するか	
①事前学習のシェア（グループワーク） オンラインを活用して考えた「高校生でも実行可能な稼ぎ方」をグループ内で共有 ②授業の目標、ねらいの提示 ③新しいアイデアの構想（ペアワーク） 制限（資金5ドル・2時間以内）を設定し、再度ビジネスアイデアを練る。ターゲット・方法などを明確にしながら、発表準備 ④英語でのプレゼン発表（グループワーク） 各ペアがプレゼン（プレゼン後、聞き手はフィードバック） ⑤まとめ・振り返り		生徒が事前に自宅でオンライン調べ学習を行うことで、授業の狙いに沿った考えをあらかじめ持った状態で参加できるようになる。その結果、授業中はアイデアの発表や思考により多くの時間を使うことができ、授業が円滑に進む。 ねらいとする探究力をどのようにつけるか 課題に対して制限された条件の中で考えることで、課題解決力と論理的思考力を高める。また、自らのアイデアを端的に英語で発表することで、実践的な英語表現力・構成力を鍛える。	

【36H】(オンライン学習型)

教科：国語	科目：論理国語	授業者：	教室：36H教室
単元：文の表現の仕方から段落構造を工夫して、 <u>自分の主張が的確に伝わるようにしよう。</u>		本時の主題：「書物の近代」の叙述の仕方を参考にして、 <u>今後の本の在り方について意見を書こう。</u>	
つきたい探究力（該当するものに○）		そのために、 	オンラインでの学習環境を、
課題発見力			① 「ツール」として活用 ○
課題解決力			② 「学習形態」として活用
批判的思考力	○		
多面的分析力			
本時における、おおまかな授業展開		どのようにオンラインでの学習環境を活用するか	
本時の課題： 今後の本の在り方について考え、四百字程度の意見文にまとめよう。 導入 本時の課題、活動について知る。 展開① 自分の意見を文章にまとめる。 展開② クラスメイトが書いた意見文にコメントを返す。 まとめ クラスメイトのコメントから、自分の主張が的確に伝わったか振り返る。改善点を考える。		Google Classroomの「質問」機能を用いて、 <u>ピアレビュー</u> を行う。 ねらいとする探究力をどのようにつけるか クラスメイトが書いた意見文に対し、コメントを返すことを通して、批判的に物事を見る力をつける。	

【37H】(オンライン学習型)

教科： 英語	科目： 英語コミュニケーションⅢ	授業者：	教室： 37H 教室
単元：Not All Eggs Are Equal, Praying Hands, 「幸運な惑星」		本時の主題：既習文章のトピックの多面的考察	
つきたい探究力（該当するものに○）		そのために、 	オンラインでの学習環境を、
課題発見力	論理的思考力		① 「ツール」として活用 ○
課題解決力	主体性・協働性 ○		
批判的思考力	言語能力 ○		② 「学習形態」として活用
多面的分析力 ○			
本時における、おおまかな授業展開		どのようにオンラインでの学習環境を活用するか	
・生徒は授業外の時間において、担当するトピックについて授業で扱われた文章では紹介されなかった情報を収集し、Google スライドにまとめておく。 ・本授業において、まずグループ内で各自のスライド内容を共有し、スライドも共有化し、グループとして1つのトピックについてのプレゼンテーションを完成させる。 ・グループ内で2つのチームに分かれ、1つのチームはその場に残り、もう一方のチームは別のグループへ移動して互いにプレゼンテーションを行う。		生徒が授業外の時間において、自分が担当するトピックの情報を検索し、Google スライドにまとめることで、授業ではより多くの時間を他者との情報共有やプレゼンテーションに費やすことができる。	
		ねらいとする探究力をどのようにつけるか	
		より多くの時間を他者との情報共有やプレゼンテーションに費やすことにより以下のことが期待できる。 ①グループ内での協働性が高まり、より多様な視点が得られること ②プレゼンテーション回数の増加により言語運用力が上昇すること	

【38H】(教科・科目・領域融合型)

教科・科目・領域：英語コミュニケーションⅢ	授業者；	教室；38H
テーマ； 問いを見つける目を養う		
融合のねらい 英語の疑問文の構造的な特徴(文頭の疑問詞を比較的自由に代入することができる点)を生かし、様々な質問をたくさん作る活動を美術作品の観察を通して行うことで、目にしたものに対して批判的に思考する能力を養う。		
本時のねらい 美術作品という他者の感性や思考を具現化したものに対して、自らの視点で問いを作り、その問いに対する自分の答えを論理的に述べることで、創造的思考力、批判的思考力、論理的思考力の育成を図る。		

内容

英語コミュニケーションⅢ	美術Ⅰ
美術作品の観察を通して設定した自らの問いに対する答えを論理性に注意して話して伝える(発表)。	校内の美術作品の造形的なよさや表現の意図などについて想像力を働かせ、各自の価値意識をもって美術文化に対する見方や感じ方を深める。

評価規準(○は該当する評価)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
設定した問いについて、設定の経緯を美術作品の特徴に触れながら英語で説明しようとしている。 設定した問いに対する自らの答えを理由と具体例を添えて論理的に説明しようとしている。		